

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572608479		
法人名	株式会社 大曲仙北介護支援事業所		
事業所名	グループホーム ほほえみの家		
所在地	秋田県大仙市戸地谷字川前209番地2		
自己評価作成日	平成30年11月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成30年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的であたたかな雰囲気大切に、穏やかな気持ちで毎日を過ごしていただけるよう努めている。季節を感じる事ができる行事の企画を行い、誕生日会ではご利用者に役割を持っていただきご利用者同士の関わりを大切にしている。ホーム近くに衣料店等のショッピングセンターがあるため、希望のあるご利用者は一緒に出掛けている。ボランティアの方々との交流は十数年続いており、月2回の体操教室は和やかな雰囲気で行われている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣住民の生活環境の変化から地域交流の大変さが窺えますが、運営推進会議を活用して交流の推進に努めています。家族の面会時には気軽に意見を聞くことができる環境づくりに努めて会話も多くなり、電話や受診報告に対しても同様で、これまで以上に信頼関係を深めることができます。職員は利用者のペースに合わせて会話も所作もゆっくりと穏やかな対応に努めているように感じられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を作り、ホールや廊下、事務所等に掲示し、常に意識できるようにしている。スタッフ会議で話し合いの場を設け、共有し実践できるようにしている。	職員は理念の言葉の意味を理解し、ケアの目標として取り組んでいます。新任の職員が増えたことであらためて理念の意義を振り返り、今の理念を踏まえつつ新しいものに作り替えることを予定しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で地域代表として町内会長に出席していただいている。地域での活動や行事に参加できるよう、情報収集に努めている。ボランティアの定期訪問や近所の方が時々犬の散歩で寄ってくれることがある。	地域の行事がなくなり、住民との交流は少ないですが、犬の散歩途中で寄ってくれる方はホームに理解を示してくれており、折に触れて声をかけてくれる住民もおります。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	「認知症なんでも相談所」を開設し、相談対応できるようにしており、相談内容によっては実践した支援方法を伝える等している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者状況や行事、活動状況等を報告し、利用者、家族、地域代表、行政等の方からご意見やご要望を伺いサービスの向上に生かしている。身体拘束適正化検討会を行い、事案について意見を述べていただき、サービス向上に生かしている。	行政や家族がホームの取り組み状況をあらためて確認したり、町内会長からは地域の情報を収集するようにしており、会議を運営に活かせるように取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では行事等の活動がわかりやすいよう、写真を提示し報告を行っている。福祉事務所職員の来訪もあり、情報提供を行い共有し協力関係を築いている。	空き情報を報告している他、運営推進会議でホームの現状を伝え、圏域内の地域密着型事業所集団指導や研修会に参加して情報交換が行われており、協力関係を築くように取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを常置し、正しく理解できるようにしている。全職員が参加し勉強会を行い、身体拘束をしないケアに努めている。	外部研修で得た情報を共有し、理解を深めています。問題が発生した場合は状況をよく観察してこれまでの経験から得た適切な方法で対応しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを常置している。全職員が参加し勉強会を行い、日頃のケアを見直すことのできるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にホームの概要、サービスの内容、対応等を書面と口頭で十分に説明し、理解と納得を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との電話や面会時に意向の確認をしている。業務日誌に家族との連絡等の記載欄があり、全職員が把握できるようにしている。運営推進会議へ家族代表で参加していただき、意見が反映できるようにしている。	家族との信頼関係の構築に努め、面会時や遠方に住む家族からもいろいろな話を聞くことができている。生活上の要望や意見を反映できるように取り組んでいます。利用者からは日常会話から引き出しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月初めに法人の管理者会議に出席している。後日スタッフ会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。欠席の職員からは事前に意見や提案をシートに記入してもらい、会議の場で反映できるようにしている。	意見を言いやすい雰囲気づくりをして職員の意見を収集し、反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則や従業員給与規定等の見直しと改善、面談を行い、職場環境、条件の整備に努めている。毎月のシフトは出来る限り、休みの希望や勤務希望を聞き調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を確保している。職員の希望も聞きながら、研修へ参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型介護事業者連絡会等の研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前調査等で情報収集を行い、本人の希望等を聞く機会を設けている。入居後は状態を見ながら会話を増やし、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の見学や入居申し込み時の際、家族の意向を聞き相談できるよう努めている。事前調査をもとに職員間で情報共有を行い、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念のもと「支えあい共に歩んでいく」という気持ちを大切にしている。日々の会話を大切にし、穏やかな気持ちで暮らしていくことが出来るよう努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月初めに家族へ「ほほえみ通信」と利用者ごとに近況報告を郵送している。ほほえみ通信には行事の写真を載せ、その時の様子がわかるように工夫している。面会時にはゆっくりとした時間を過ごすことができるよう、環境を整えている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆に外出された利用者様もおり、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう時間調整を行なう等支援に努めている。遠方の家族から電話が来た際は、本人が居室でゆっくりと会話ができるよう配慮している。	娘や孫、兄弟姉妹の来訪があり、お盆に帰宅する方もおります。入居時のアセスメントや家族からの新たな情報を活用して関係継続に努めています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性や個々の状況を配慮し、行事で役割(誕生日会でプレゼントを渡してもらおう等)を持っていただき、お互いに関わることが出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ関係の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの日頃の様子をよく観察し、会話の中から希望や意向が把握できるよう努めている。気づいたことは記録に残し、全職員が情報を共有している。	思いを上手く伝えられない人は日常を観察し、家族からも意見を聞くようにして生活に反映できるようにしています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期の面談時の情報をもとに把握している。家族の面会や病院受診同行の際等、会話の中から新たな情報が得られるよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に各用紙に記録している。一日の過ごし方、心身状態等を申し送りにて把握できるように努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録(ケース記録、身体状況確認表等)を資料とし、会話の中から得た本人の意向や、面会時の家族とのやりとりからの意向を取り入れて、現状に即した介護計画を作成している。またモニタリングを行い、ケアカンファレンスで話し合いをしている。	家族に状況を報告して意向を確認し、本人本位の暮らし方ができるよう話し合っ作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録に記入している。身体状況確認表や業務日誌、スタッフノート、申し送りを活用し情報を共有し実践や見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の広報や運営推進会議、ボランティアの方々からの情報収集を行っている。地域の方に避難訓練に参加していただき協力を得ている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時にかかりつけ医について説明を行い、了解を得ている。必要時は状態報告を行い指示やアドバイスをいただいている。かかりつけ薬局へは疑問点がある場合等、電話連絡を行っている。	協力医が内科医であることから入居時に変更していますが、他科や歯科については入居前からの医療機関で継続して受診しています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の申し送りに参加してもらい、身体状況や受診内容、日々の様子等の情報を伝えている。体調の変化時は相談や報告を行い、適切な受診ができるよう支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行い、入院中は担当看護師と連絡を取り合い情報交換を行っている。医療機関、家族と話ができる機会を調整し、早期に退院できるよう調整している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化対応に関する指針」「終末期ケアに関する指針」について、事業所でできることを十分に説明し方針を共有している。指針に則り、利用者の変化に応じて対応できるよう検討を行っていききたい。	これまで看取りの経験はなく、現在対象となる方もおりませんが、研修には参加しています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践訓練を定期的に行っていないため、今年度に予定し行っていききたい。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。地域の方(町内会長)に参加していただき、災害時の協力が得られるようにしている。昨年の水害時には自主避難を実施している。	訓練には町内会長、近所の方の参加、協力が得られています。水害が想定される川が近くを流れており、実際に避難を経験しています。	緊急時の連絡体制を見直すと共に水害対策については運営推進会議等で行政及び地域に働きかけ、ホームだけではなく地域全体の問題として取り組まれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者それぞれに合わせ、個々に応じた声掛けを行っている。	職員は言葉遣いに気をつけ、穏やかに接しています。ホールに面した居室には出入りする際のプライバシーに配慮し、防災加工の暖簾が掛けられています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	曜日を決めて、おやつ時間に飲みたいものを選んでいただき、自己決定できるようにしている。(ほほえみ喫茶)		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活ペースを大切にして、一人ひとりが楽しく過ごせるよう努めている。天気の良い日は少しでも気分転換ができるよう働きかけ、希望に添えるよう対応している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カット、髪染め等希望に合わせて行っており、家族(娘さん)にカットしていただいた利用者もいる。外出や行事の際は女性利用者様がおしゃれできるよう、化粧道具を準備し楽しみが持てるようにしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆や彼岸等季節に合わせた献立で、食事を楽しむことができるようにしている。誕生日会では昼食メニューをリクエストしていただき、希望に添えるよう努めている。	プランターの野菜を収穫し、食材の買物に同行したり、準備や片付けも職員と一緒にやって同じテーブルで食事をしています。おやつ時に自由に飲物が選べる「ほほえみ喫茶」は利用者に好評な企画となっています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理の際はたくさんの食材を使用し、「10食品群チェックシート」を活用する等偏ったメニューにならないようにしている。プランターで育てた野菜を調理し、食事の際にそのことを伝え食材への関心を高めている。身体状況確認表で摂取量を把握している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し、磨き残しのある利用者様には、口腔内を確認し介助している。義歯を外し紛失の可能性のある方に対しては、食前まで預かっている。就寝前は義歯の洗浄消毒を行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況確認表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、場面に合わせた声掛け、誘導を行っている。プライバシーに十分配慮して、介助を行っている。前施設でリハビリパンツを使用していたが、失禁がほとんど無いため使用しなくなった利用者様もいる。	全員尿意、便意があり、トイレで排泄しています。一人ひとりの排泄パターンを把握していますが、チェック表で確認して声かけすることもあり、個々に合わせた対応をしています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のメニューはたくさんの食材を使用するようにしており、水分や食事摂取量の確認と把握を行っている。軽運動や廊下の歩行運動、体操教室等で体を動かすことのできる時間を持ち、予防に取り組んでいる。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の健康状態を把握し、希望に添えるよう努めている。一番風呂に入りたい等の希望のある利用者もいるため、心身ともにリラックスできるように個々にそった支援に努めている。	週2回入浴しており、一人ひとりの希望に沿った支援に努めています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に適度な活動を行い、軽運動やレクリエーションを取り入れ夜間の安眠へつなげている。本人の様子を確認しながら適度な休息を促している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書で確認を行い、不明な点は薬剤師へ電話連絡を行っている。受診後は受診記録に記入し全職員が把握できるようにしている。看護師にも確認してもらい、助言をいただいている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、居室のモップ掛け等できることは見守りや一緒に行いながら続けている。歌を歌うことが好きな利用者様が多いため、カラオケを行う等気分転換できるように努めている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等で戸外に出かけられるよう、その日の天気と本人の体調をみて希望にそえるよう努めている。市から無料招待券をいただき、毎年開催されるお盆全国大会の観覧に出かけている。お盆に外出された利用者もあり、家族と協力し支援している。	皆で外出する機会がもっと多くても良いのではと管理者は感じていますが、日向ぼっこをしたり個別の希望に応じて買い物に出かけたりしてホームに閉じこもらずに過ごせるよう工夫しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居後、家族の了解を得てホーム側での立替形式を原則としている。預かり金保管規程により預からせていただくこともできるようにしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の娘さんからの電話の際は、ゆっくりとした気持ちでやりとりができるよう、居室で子機を使用している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾り付けを行い、廊下に行事の写真を掲示している。ホールのソファの配置を換える等居心地良く過ごせるよう工夫している。適度に空気の入れ換えを行い、快適な空間作りに努めている。	食堂テーブルとソファの配置を変更したことによりホールが広く感じられます。ほとんどの利用者は日中をホールで過ごしており、ゆっくり、自由に過ごせる空間となるよう工夫しています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居室があり、自由に過ごす空間がある。ホールのソファで気のあった利用者同士思い思いに過ごすことができるようにしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	面会の際に写した家族との写真を、大事に飾っている利用者もあり、本人が居心地良く過ごせるように配慮している。	入居時に私物の持ち込みに制限しておりますが、馴染みのものを置かれている方が少ないように感じられます。利用者の状態を把握しながら安全に過ごせるよう配慮しています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	手すりやスロープの設置、浴室に滑り止めマット等を使用、居室は段差をなくし安全な環境作りに努めている。		